

***春 (LE PRINTEMPS)**

朝まだきに小鳥のさえずりが賑やかになってきました。正に孟浩然の「春暁」“春眠不覚曉 处处聞啼鳥 夜来風雨声 花落知多少”の感じそのままな毎日です。昨年の3月はパリでも12日-15日は朝タ-6℃と零下の気温、日中でもせいぜい3℃で、雪が降っていました。ところが今年はどうでしょう、1900年以来の暖かさとか、3月7日辺りから平年より7℃から10℃高い(entre 7℃ et 10℃ au-dessus des moyennes saisonnières) 20℃前後、日向では20℃から25℃、雲ひとつ無い晴天が続いて、冴えない天気(le temps maussade)に飽き飽きしていた人達がワッと繰り出し、日当りの良い街角のカフェテラスは超満員です。いつもですとミモザ(le mimosa)、クロッカス(le crocus)、連翹(le forsythia)、山吹(la kerrie)、黄水仙(la jonquille)、と黄色い花で始まるはずの春は、桜(le cerisier)、桃(la p ê che)、梅(le prunier)、木蓮(le magnolia)、等々、花々が一斉に咲いてしまいました。マロニエの葉がバリバリと伸び、その裏には早くも花の蕾が膨らんできました。さあ、こうなるとアレルギー体質の人(l' allergique)は大変、そういう私もアレルギーのバケツが一杯になったのでしょうか、目や喉が痒くて堪りません。そして晴天・高温が続いた所為で排気ガスなどによる大気汚染(la pollution)が酷くなり、スモッグ(le smog)に景色が霞がかかった様に見えます。そうこうしているうちに21日は「春分の日」、春になりました。

***大気汚染のピーク (LE PIC DE POLLUTION)**

晴天・高温がもたらした工場や車の排気ガスによる大気汚染が3月14日頃から各地で真剣に取り上げられ、緊急処置(des mesures d' urgence)が採られました。パリ及びパリ郊外地区(l' Ile-de-France)では、新聞・ラジオ・テレビを通じて「早朝又は深夜に部屋の空気を入れ替え、薪による暖房は避けること」(A é rer t ô t le matin ou tard le soir. Eviter le chauffage au bois)、 「高齢者、乳児、妊産婦、喘息持ち、心臓病み、アレルギー体質の人などは外出を避けること」(Personnes â g é es, b é b é , femmes enceintes, asthmatiques, cardiaques, allergiques doivent é viter de sortir de chez eux)、 「出来る限り車の使用を避けること」(Eviter au maximum d' utiliser la voiture)、 「ジョギング、自転車などのスポーツを避けること」(Eviter de faire du sport à l' ext é rieur, jogging, v é lo,....)等々の注意喚起が為され、環境庁と運輸省及びパリ市交通営団(RATP)、国鉄(SNCF)の話し合いにより、自家用車を使わず、メトロ、トラム、バスなどの公共交通機関を利用するようにとパリ市内、パリ郊外地区は全ての交通機関が無料サービスを実施(l' ensemble des transports en commun franciliens sont gratuits)、しかも3日間も続きました。更に « la circulation altern é e »と名付けて、17日には自家用車の使用は

ナンバープレートの番号の末尾が奇数の車のみ走行が許可され、メトロやバスも無料のまま 4 日目、18 日はナンバープレートの数字が偶数の車、、、と交互に規制が行われました。モンパルナスの交差点に立ってみましたが、確かに車の渋滞も無く、いつもより空気が澄んでいるように感じました。それにしても電車、バスを 4 日間も無料にすることは随分思い切ったことをやるものです。でも 7 月の運賃値上げに反映させるのではないかと心配する声も聞こえています。



*2014 年度バゲット・グラン・プリ (GRAND PRIX DE LA BAGUETTE 2014)



毎年行われるバゲット・パンのコンクール、今年は 187 名が参加、焼き具合、味、香り、形、長さは 55-65cm、重さ 250-300 グラム、等厳しい審査の結果、26 歳のアントニオ・テセラさんが“パリで最高のバゲット賞”に選ばれ、賞金 4000 ユーロを獲得しました。

又これから 1 年間はエリゼ宮の大統領府へ毎日バゲットを納める栄誉に与ります。(il gagne le prestige de fournir quotidiennement ses baguettes à l' Elysée durant un an.) お父さんも 1998 年のコンクールに優勝しており、親子 2 代で焼く“パリで最高のバゲット”の店は《Aux Délices du Palais》 アドレス 60,Boulevard Brune,Paris 14e で porte des Vanves の近くです。



* “オベリスクの旅 ルクソール・パリ (1829-1836)” 展 (Expo. « LE VOYAGE DE L' OBELISQUE • Louxor-Paris (1829-1836) »)

パリのコンコルド広場の真ん中に立つオベリスクは、既に見慣れた景色の中に溶け込んでいますが、紀元前 13 世紀のエジプトに遡り、ラムゼス 2 世がルクソールの宮殿前に立てた 2 本のオベリスクを、それから 33 世紀も後になってエジプトのメヘメット・アリ第 2 王が、町の近代化に貢献したことへの謝礼に、フランス人技師達に供与したもので、230 トンもあるオベリスク 1 本だけを大掛かりな起重機



を造ってやっと倒し、特別に建造した船に載せて 1829 年ナイル河を上り、地中海を横断、大西洋からルアーブルへ、そこからセーヌ河を経てパリに到着、セーヌ河岸に陸揚げしたのが 1836 年、数ヶ月後の 10 月 25 日、時のルイ・フィリップ王と大勢のパリジャンの前で立ち上げたまでの経過を「旅」として、各種の資料、クロッキーなどを展示して、ルクソールからパリへの長旅の様子を伝えています。Musée national de la Marine (Palais de Chaillot, Place du Trocadéro)にて 2014 年 7 月 6 日迄 火曜日を除く毎日 10 時-18 時、入場料は 10 ユーロです。

*ロワシー・シャルル・ドゴール空港は 40 歳 (AEROPORT DE ROISSY CDG A 40 ANS)

お馴染みのパリの表玄関ドゴール空港は、パリから北へ 25 km、1974 年 3 月 8 日に開港、同 13 日ニューヨークから到着の TWA 機を 1 番機として迎えてから 40 年が経ちました。最初に来た現在のターミナル 1 だけの頃は 1 日に 7000 人程度の乗客数でしたが、その後ターミナル 2A、B、C、D、F、E とターミナルも増え、更に B747 ジャンボ機よりも



大きい A380 機の登場で 2G が完成、チャーター機専用のターミナル 3 を加えて現在では一日に 17 万人の乗客を取り扱い、英国のヒースロー空港に次ぐヨーロッパ第 2 の規模となっています。しかし 40 年の歴史の中には、良い事ばかりでなく、フランスが誇る超音速機コンコルドは 1976 年 1 月 21 日にここからニューヨークに向け初飛行したのですが、2000 年にやはりこの空港から離陸直後にクラッシュして、



残念乍ら超音速機の歴史を閉じました。又ターミナル E は 2004 年に搭乗ゲート棟が一部崩壊して、乗客 4 人が死亡するという事故があり、その後建て直しを行い、2008 年に再開したという経緯も汚点として記録されています。常に安全で快適な旅を祈るのみです。

2014 年 3 月 19 日 Saint Joseph 日の出 06 時 55・日の入 19 時 01 各地の気温 (朝夕/日中)
パリ 8℃/18℃晴天、ニース 11℃/19℃晴天、ストラスブール 8℃/16℃晴天 皆様お元気で、菅